

第 13 回 原子力に係る安全性・信頼性向上委員会 議事概要

- 1 開催日時 2024 年 7 月 9 日（火）15:00～17:00
- 2 開催方法 Web 開催
- 3 出席者 野口委員長、出光委員、高田委員、天日委員、藤本委員、松田委員
（幹事）原子力監査室長
- 4 議事概要

本委員会の役割拡大について了承された後、核セキュリティ及び原子力防災他、原子力の安全性・信頼性向上に係る当社の取組みと玄海原子力発電所 3 号機第 4 回安全性向上評価届出内容について、様々な視点から検討いただいた。安全の方針に関する主な意見等は以下のとおり。

(1) 「原子力に係る安全性・信頼性向上委員会」の役割拡大について（資料 1）

- ・GX 脱炭素電源法が成立したことから、原子力発電の安定供給確保や GX への貢献の観点からのご意見もいただくこととし、更なる安全性・信頼性向上のため、本委員会の検討テーマとして核セキュリティに関する事項を加えること（ただし、公開可能な範囲）、また、原子力防災についても積極的に取り上げていくことについて、委員全員の賛同を得た。

(2) 当社の核セキュリティに係る主な取組みについて（資料 2）

- ・セキュリティの観点で 1 番危険な人は、弱点を知っている、弱点に近づくことができる、技術を持っている社員であり、必ずしも外部脅威者のみが不法行為を行うとは限らないと認識すべき。
- ・フェンス等で人の侵入を防止するという二次元的な視点から、ドローンの侵入といった三次元的な視点へ見直すなど、考え方・意識の見直しが必要。
- ・様々な人が発電所に入ってくることを念頭に、原子力のハードに対する安全とは技術が違うという感覚で扱わないといけない。

(3) 当社の原子力防災に係る主な取組みについて（資料 3）

- ・今後、緊急時対応の医療ネットワークを構築していく上で、災害拠点病院との連携、訓練についても、考慮してほしい。

- ・通報連絡文については、同じ趣旨で書いた内容でもそれが伝わらないという場合もあるため、日頃から通報連絡文の書き方に関する訓練を検討してほしい。
- ・防災訓練のPDCAを実施する中で、訓練計画の策定において、前年度改善事項を反映するというやり方は古典的であり、一度決めたものを深掘りするのには有効だが、新しく必要な事項を差し込むという視点での検討が必要。
新しい訓練が増えている中で、それらを反映することができるオープン型のPDCAにしておくべきであり、状況の変化を踏まえて、基本構造からイノベーションを起こしていけないといけない。
- ・電力会社は、ハードに投資した分、ソフト（訓練）の数が増えて本末転倒な状況下にある。安全の実効性という意味できちんと検討し、訓練自体の体系性と同時に合理性を考えるべき。

(4) 原子力の安全性・信頼性向上に係る今後の主な取組みについて（資料4）

- ・安全というものはバランスが大事であり、個々を強化しても総合的に強くなっているとは限らない。全体的な安全バランスというシステムティックな見方も必要。
- ・運転延長となると、非常に小さなほころびも大きな問題になってくるかもしれないので、その時々で、きちんと議論することが重要。

(5) 玄海3号機 第4回 安全性向上評価の届出骨子について

- ・4章「総合的な評定」にて「安全性に関する短所として抽出されたものはなかった。」と記載されているが、どこか問題があるはずだという目線で短所を探すことも、安全性を向上させる活動において慢心をしないという点で重要。

以 上